

羊ヶ丘養護園安全委員会だより

羊ヶ丘養護園 VOL. 21
平成29年2月13日 作成者 神田・成田

第33回安全委員会が1月31日に開催されました

※ 今回の報告ケースについて ※

今回の定例会議では、平成28年10月29日から平成29年1月15日までに起きた、12件の処理対応ケースについて、暴言・暴力・威圧や脅しが起きたことを報告しました。今回報告したケースでは、小学生が起こしたものが9件で、そのうちの2件がハサミを持って脅したというケースであり、今後の対応について意見を頂くことが出来ました。

～今回の安全委員会で話されたこと～

1つ目は、小学1年生男児R君の自分の要求が通らない時や自分の行動が制限された時、暴力を起こしてしまいタイムアウトをした際に起こす奇怪な行動（床を舐める、鼻水を床にまき散らす、上半身裸になり窓から衣類を投げるなど）をどのように理解して対応したら良いのかについて助言をお願いしたところ、山岸委員長より「職員に関わってもらいたい、注目してもらいたいがゆえの対象行動ではないか」というお話があり、児童の生育歴からその可能性は十分にあるということが分かりました。また、彼の言動が独り言ではないかという指摘もあり、本人の言動にあえて反応しない等、様々な対応を試みて変化を観察し、R君との関わりについて考えて行く必要があると助言頂きました。

2つ目は、小学生高学年の児童がハサミを持って年下児童を脅したケースを報告しました。小学校後藤校長より、刃物の正しい使い方を教える機会が必要であり、指導の場面以外の日常ケアの中で“なぜ”危ないのかということ、エピソードや寓話を用いて、意図的に子どもたちに教えていくことが必要であると助言を受けました。その後、ハサミを持って脅したケースについては、再度同じことが起きる可能性もあることから、安全委員会終了後、指導部長が山岸委員長からの申し渡しとして「刃物を使った脅しは、大変危険であり、これから十分に気を付けて二度と同じことが起こらないように」と、児童らに注意をしました。児童らは真剣な表情で注意を聞き、事の重大さを十分に受け止め、「もう二度としない」と心から反省している様子でした。

外部委員の皆さまの貴重なご意見・励ましのもとに、今後も子どもたちが安心・安全な生活を送ることが出来るように支援し、児童のケアに取り組んでいきたいと思っております。

今回定例安全委員会に陪席させて頂き、ケース報告の審議だけでなく、児童との日々の生活でのケアがとても大事であることを改めて考えさせられました。児童の行動を自分で決めつけ、他の気づきが足りなかったと反省しました。

他に児童との関わりの中で、職員間で協働したり、その振り返りを日頃より行い、自分自身が何事にも真っ先に取り組むことが必要であると感じました。

今回助言を頂いたことをこれからの実践に活かしていきたいと思っております。

児童指導員 神田 知幸

初めて安全委員会に陪席させて頂きありがとうございました。委員の方々の意見から、子どもたちの1つ1つの行動の意味や思いについて、改めて考えさせられる機会となりました。

また、今回は対象行動についてお話があり、今まで「何故このような行動をするのか？」と考えていたことが、「確かに」と納得し、子どもの行動を理解する大切さを学ぶ場となりました。

今後も、子どもたちの安心・安全な生活を護ることが出来るよう、努力していきたいと思っております。

保育士 成田 咲月